

裾野市

市長

村田

はるかぜ

悠

×

CEO

ウーブン・バイ・トヨタ(株)

くまべ

隈部

はじめ

肇



新春号第2弾の対談は、令和5年10月1日にウーブン・バイ・トヨタ(株)のCEO（最高経営責任者）に就任された隈部氏と、「未来のすその」について語りました。

裾野市に未来を創っていく立場にあるお二人が、どういったところを目指しているのか、その思いなどについて話しました。



歴史と未来を共につくる

コーディネーター ▶ ウーブン・シティの建設が進む中、改めてウーブン・シティはどのような経緯でつくられることになったのか、市民の皆さんに向けてお聞かせください。

隈部 ▶ 裾野市の皆さんにはいつもお世話になっております。トヨタグループと裾野市の皆さんとの関わりでいきますと、裾野市の皆さんの大切な場所を譲り受け、1966年に自動車性能試験場（後の東富士研究所）を、その後、1967年に乗用車組立工場（後の東富士工場）を作らせていただきました。それ以来50年以上、裾野市の皆さんのご協力をいただきながら、いいクルマをつくってそれを世界中にお届けしてきました。2011年の東日本大震災で、東北

が大きなダメージを受けた中、長期的に東北の復興を支えたい、東北の皆さんのお役に立ちたいという思いがあり、2018年には東富士の生産を東北に移転するということを決めました。その中で、東富士工場の従業員から、東北には行けない仲間もいるという話を聞き、当時のトヨタ自動車(株)社長の豊田章男が、この跡地に未来につながるまちの形をしたテストコースを作り、モビリティカンパニーの基になるような技術をどんどん生み出していくという構想を話したのが最初です。



ウーブン・バイ・トヨタ提供

ウーブン・バイ・トヨタ(株)は、トヨタ自動車(株)の子会社であり、ソフトウェアを中心にモビリティに関する技術や事業を開発しています。



コーディネーター▶市長は生まれも育ちも裾野市で、子どもの時は東富士工場の印象をどのようにお持ちでしたか。

市長▶私は友達と一緒に社宅のプールへ遊びに行った思い出があります。企業やそこで働く皆さん、家族が地域に丸ごと溶け込んでいました。そういう意味では、思い入れの強い東富士工場です。工場撤退の話聞いたときは、まだ私の周囲にも関係者が多かったので東北に行かなければいけないとか、友人が東北に行くという話を聞いて、とても寂しい気持ちになりました。けれども今、隈部CEOから言っていた、「将来につながるモビリティカンパニーをつくるための礎となるべくテストコース」ということで発表されたときは、この地が未来のために何かできるとするならば、裾野という土地はすごいものになるなと感じました。



コーディネーター▶隈部CEOは、ウーブン・シティ建設の発表をどのようにご覧になっていましたか。

隈部▶まず、やはりトヨタがモビリティカンパニーになるということの決意の一つがウーブン・シティだと。市長がおっしゃるように、50年以上にわたり裾野でいいクルマをつくって世界に届けてきて、次の50年やはりこの裾野という地で、未来に繋がる新たな技術を生み出し、モビリティカンパニーへと変革していく。これはすごいことなので、トヨタグループの一員として、とても誇れる取り組みだと感じていました。

ウーブン・バイ・トヨタ 隈部CEO就任

コーディネーター▶そのような中で令和5年の10月にウーブン・バイ・トヨタのCEOにご就任されました。その打診を受けたときはどのようなお気持ちでしたか。



隈部▶打診を受けたというよりも、命を受けたというほうが正しいですね。そのとき思ったのは、ずっと長い間トヨタグループの一員として働いてきて、地域に貢献する、地球に貢献する、世界中の人に貢献する、その最前線に立てるなと思いました。大変だなという思いもありましたけれども、それ以上にわくわくしました。皆さんもご存じのように、クルマは今大変革の真っただ中で、今後、クルマの価値を高めていく一つの要素としてソフトウェアが非常に重要なものだと思っています。ソフトウェアに注力するということは、非常に多くの人が必要です。いかにソフトウェアを効率的に開発するか、これが自動車産業、そしてモビリティ産業の競争力の大事な部分になるとしています。ウーブン・シティでは、当然のようにソフトウェアで新しい価値を生み出すこともやりますし、その価値を生み出すためのプラットフォーム、そういう土台になる部分もしっかりつくる、その両方をしっかりやるということだと考えます。

組織づくりは互いの尊重とチームワーク

隈部▶よくダイバーシティといいますが、人と人が仕事をするわけですから、みんなが尊重し合っているチームワークで仕事ができる、そういう組織が一番いい組織だと私は感じています。弊社は本当に多くの国の人が集まっている会社ですので、相互に信頼・尊敬し合う、周りの人に感謝しながら仕事ができる、そういった会社、組織が理想だと考えています。

市長▶私が組織づくりで注力したのはやはり市長戦略の作成です。ミッションとビジョンをつくって、バリュー、日本一市民目線の市役所をつくるという根幹を決めました。そのためにはどう行動していけば

いいのか、これはトヨタのフィロソフィーとも似ているところがあるのではないかと思います。やはり組織の一体化、戦略的に何をやりたいのかということ



を職員に周知をして、このまちはどういう方向に進んでいくのか。この体系化は非常に難しかったです。変わらなければいけないと思っている職員もいるのだけれども、どうせ言っても無駄だろうというような。その中で、コスト意識の徹底がありました。今まで裾野市というのは将来投資事業にあまり積極的にやってこなかったのです。しかしながら、この事業に関しては、しっかりと根拠がある、市民のためになるということであれば、しっかり予算をつけていく。さらにはスピード感を持ってやっていくこともとても大切だと思っています。

新しいことへのチャレンジ



隈部 ▶ 新しいことに取り組む、これは勇気が要ることだと思います。個人でも会社でも勇気が要ることです。でも、進まないと変わらない。だから、いかにみんなをモチベートして変わっていくか、そこはすごく大事だと思います。市長もおっしゃったように、パーパス(目的)、ビジョン、ミッションをしっかりと設定して、それを伝えて、フィードバックももらいながら進めていく。新しいことにはチャレンジするときには、リーダーとしてしっかり道筋を示して、そして、みんなが勇気を持ってついてきてくれるために、心理的安全性を担保した環境をつくる。そう

した点は、企業であろうと自治体であろうと一緒にだと思っています。特に新しいことに取り組むときには、この視点がとても大切だと思います。

ウーブン・シティはモビリティのテストコース



ウーブン・バイ・トヨタ提供

コーディネーター ▶ まさに新しいプロジェクトであるウーブン・シティ、詳しくどういう場所を目指しているのか、どのような場所なのか、お聞かせください。

隈部 ▶ トヨタがモビリティカンパニーに変革するためには、いいクルマをつくることももちろん大切ですが、いかに人の暮らしや社会とつながり、理解を深めるかということもとても大事なことです。そのためには、クルマだけでなく、ヒト・モノ・情報といった様々なモビリティと社会インフラとの関わりをしっかりとテスト、検証できる場が必要です。ウーブン・シティは、まさにトヨタがモビリティカンパニーに変革するためのいろんなネタをしっかりとテストする場所、テストコースだという点がまず一番重要なポイントです。テストコースですので、完璧ではないものをテストすることもありますし、自由に誰もが出入りできるような場所ではありません。だからこそ、トヨタが公共の土地ではなく自分の土地で、皆様の税金ではなく自分のお金を使って、しっかり造っていきます。ただ、そこにはトヨタだけではなく、多くの想いを共にする仲間が集まってもらって、この先50年のモビリティ社会に必要な、「未来の当たり前」となるような技術を作って、社会に届けていきたいと思っています。トヨタのこれまでのクルマのテストコースも重要ですし、ウーブン・シティのような実際の人の生活があるテストコースという環境もとても大切なことなのです。



良いパートナーシップ

市長 ▶今回、このようにウーブン・シティが裾野市に建設され、ウーブン・シティの中だけで実験を行うのではなく、市内で使ってみたらどうなのか、市民の反応はどうかということも問題解決にも使えるのではないかと思います。良いパートナーシップで磨き上げていきたいですね。この夏には富岡地区の夏祭りに、秋にはフェスタすそのにe-Palette（モビリティサービス専用バッテリーEV）に来ていただきました。この乗り物は何だろうと子どもたちが興味を持って目を輝かせていましたね。全ての人に移動の自由を提供し、プラス何かのサービスを提供したらみんなが幸せに暮らせるとか、市民も一緒になって考えられると本当に素晴らしい関係になると感じます。市のイベントに積極的に参加していた



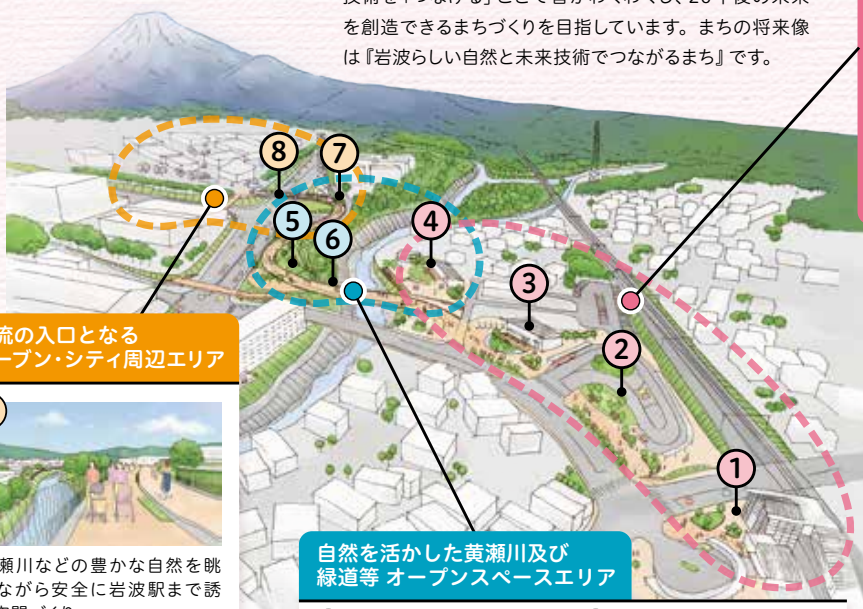
だいて、本当に感謝しております。ウーブン・シティによって子どもたちをはじめ、地域にも明るい情報提供があるのだろうというイメージを持ちました。さらに、ウーブン・シティの一つの関連する展望として、企業版ふるさと納税をいただいて、岩波駅周辺整備事業を進めています。改めてご協力いただいていることには感謝申し上げます。



岩波駅周辺整備事業

基本方針

岩波の地域資源とウーブン・シティ等周辺企業が持つ未来技術を「つなげる」ことで皆がわくわくし、20年後の未来を創造できるまちづくりを目指しています。まちの将来像は『岩波らしい自然と未来技術でつながるまち』です。



交流の入口となるウーブン・シティ周辺エリア



黄瀬川などの豊かな自然を眺めながら安全に岩波駅まで誘う空間づくり



次世代モビリティも走行可能な空間づくり

自然を活かした黄瀬川及び緑道等 オープンスペースエリア



(仮称) 黄瀬川緑地公園を気持ちよく移動しながら、富士山を眺望できる空間づくり



現地形を生かした、歩行者や地域住民がふと立ち寄りたくなる自然豊かな空間づくり

岩波駅周辺・交通結節点エリア



岩波駅から真っすぐ伸びる歩行者動線の先に富士山の眺望が自然と目に入る空間づくり



原風景として残る石材(溶岩)や用水を身近に感じられる憩いの空間づくり



モビリティのハブ(拠点)を含めた新たな交流が生まれる空間づくり



勢いよく流れる黄瀬川の原風景を身近に感じられる新たな賑わい空間づくり

名称や計画内容は令和5年3月時点の情報を基にしており、計画内容や、名称などについては変更する可能性があります。

これからの期待 子どもたちの未来へ

市長▶一番期待していることは、子どもたちの将来のことです。ウーブン・シティというものが市内に建設されたことによって、色々な生活が改善され世の中が良くなり、子どもたちにこんな大人になりたい、あんなこともしたいと希望を持つきっかけになれば良いと思うのです。きっかけや気づきの中にある子どもたちの思いというのは、ひょんなことから発展したり実現化したりするもので、何か興味を持ったことを一生懸命継続してやってみたら、素晴らしい人材になるということが多いのです。それってすごいことだと私は思います。子どもたちは身近なウーブン・シティから学ぶ、学んで何をしたいか、と考えますよね。子どもをはじめとして市民の皆さんがウーブン・シティで開発されるサービスや技術に触れ、自ら未来について考える機会があればすごいことなので、これは本当に期待でしかないです。

隈部▶市長のお話を聞いて、まずウーブン・シティの前に、子どもたちには模範を示せる大人にならな

ければいけないと改めて思いました。子どもたちの可能性は無限大です。見たもの、聞いたものを純粹に受け止めて自分の夢に変えることができる、そんな力を持っています。私たちは、子どもたちにいい夢を見せてあげられる、道を示してあげられるような大人にならなければなど、決意を新たにしました。ウーブン・シティに関して言うと、「未来の当たり前」づくりを目指しているテストコースが自分の住んでいるまちにあること、そして、そこでどんなことに取り組んでいるのかを、ぜひ近隣の子供たちにも知ってもらいたいですね。遠くのどこかにあるのではなく、自分のまちにある。そのことが子どもたちにとっていい刺激になるといいなと思います。実際に、弊社のスタッフもトヨタ自動車(株)東富士研究所、トヨタ自動車東日本(株)などと連携して、市内の小学校の皆さんと交流させていただいています。こうした交流をはじめ、子どもたちの夢につながるような取組を進めて、地域や社会にしっかりと貢献できる、そんな「町いちばんの会社」になりたいと願っています。

市内の小学生がウーブン・シティについて見て、聞いて、感じる



東小学校の5年生の児童がグループに分かれてウーブン・バイ・トヨタの説明を聞きました。バーチャルでウーブン・シティのまちを一足早く体験しました。



トヨタ自動車(株)東富士研究所、トヨタ自動車東日本(株)、ウーブン・バイ・トヨタ(株)が連携したトヨタスクール東富士で、市内の小学5年生が企業の事業や創意工夫、モノづくりの体験を行っています。その一環でウーブン・シティについても学んでいます。



東小学校5年
くしま そな
九島 想那さん

ウーブン・シティのまちが、自分以外の誰かのために頑張っていること、何を工夫しているのか知ることができました。私は実際にウーブン・シティを自分の目で確かめたいと思いました。



東小学校5年
かしわぎ みなと
柏木 湊斗さん

ウーブン・シティの考え方は心が人に向いている、優しいと思いました。ウーブン・シティに住む発明家が人のことを思う人だと知りました。自分もウーブン・シティに行ってみようと思いました。



自分以外の誰かのために

隈部 ▶ 1966年以来、裾野で皆さんと、いいクルマをつくってきた。そういう絆があって今があると思います。市民の皆さんに感謝しながら、次の50年も一緒に頑張りたいなと思います。トヨタの創業以来、東富士工場でも培ってきた「自分以外の誰かのために」という想いを、このウーブン・シティでも引き継いでいきます。最近ウーブン・シティ近くを通られた方、随分建ってきたねというふうに思われていると思いますけれども、第1期のエリアに関しては2024年夏に建築工事を終え、その後準備期間を経て、2025年には一部実証実験を開始する予定です。すぐには難しいかもしれませんが、「自分以外の誰かのために」という志を同じくしていただける市民の方にも、未来のために様々な発明をするウーブン・シティのプロジェクトに参画いただけるとありがたいですね。とはいえ、私たちはまだよちよち歩きを始めたところ。市民の皆さんには、まずは温かい目で見守っていただければうれしいです。



ウーブン・パイ・トヨタ提供 (令和5年11月撮影)

人と企業に選ばれるまち

市長 ▶ 隈部CEOの優しいお人柄、心持ちは感じられるお言葉ですね。やはり、良いまちでなければ人にも企業にも選ばれない、良い市というのは、市民に必ず目線が向いているまちだというふうに思います。ですから、日本一市民目線の市役所をつくれば、人と企業も必ずこのまちに来てくれると。もともとはトヨタ自動車東日本の工場だった、そのレガシーのもとに次はウーブン・シティが建設されるわけです。ウーブン・シティ建設がきっかけでまちづくりは変わっていくと思うし、裾野という名前がすごくPRできたなというふうに思っています。本日はありがとうございました。今後どうぞよろしくお願いいたします。



隈部 ▶ ありがとうございました。これからもどうぞよろしくお願いいたします。



令和5年度わたしの主張裾野市大会で「裾野市の未来」について発表



富岡第一小学校6年
柏木 拓人さん

柏木さんはウーブン・シティ建設をきっかけに、未来の裾野のまちに興味を持ち、毎週ウーブン・シティの建設の様子を記録しています。「未来に想いを向けるとワクワクします。建設が進むにつれ、これまで想像できなかった建物の様子もわかるようになりました。初めは都会的な街になるのかと思っていましたが、人と人のつながりを大切にする、安心できる穏やかで幸せな場所になることが分かりました」と話してくれました。柏木さんの主張大会の作品はこちらから→

